

八嶋浩久議員。

〔20番八嶋浩久議員登壇〕

○20番（八嶋浩久）皆さん、おはようございます。自民党議員会の八嶋でございます。今回は一般質問の機会を頂きました。関係の皆様方には感謝、御礼申し上げる次第でございます。

そして、本日は、放生津八幡宮祭曳山・築山保存会の会員の皆様方や地元の皆様方が、県議会の傍聴に来ておられます。県政にも大変関心を持ってもらい、併せて敬意と感謝を申し上げる次第であります。

さて、令和7年、現時点での私にとってのトピックは、ブルーインパルスが射水市上空に現れ、新湊、伏木、氷見の被災地域の空から、地震の復旧・復興に対して励ましに来てくれたことでもあります。とても感動いたしました。

誘致に向け、一緒に汗を流した針山議員、光澤議員をはじめ、御尽力いただきました関係の皆さんには心より感謝を申し上げ、私自身、復興への励みとして、この感動をしっかりと皆さんに伝える決意を新たにしたところであります。

今年を振り返ると、各種の選挙、委員会や部会や議連の視察などいろいろあったので、あっという間に12月になった気がしています。地震や豪雨、自然災害の影響や令和の米騒動、物価高、世界の紛争など不安を抱えながらも、秋に収穫された農産物やブランド魚を味わえる楽しい季節になりました。

県民の皆さんが、すばらしい年末、すばらしい新年を迎えられますことを願いながら、質問に入ります。

それでは、大きな問1、個と公の調和型社会の実現から4問お伺

いします。

筱岡議員の大河ドラマ誘致にあやかるわけではありませんが、私からは、NHK朝ドラの県内誘致についてお尋ねしたいと思います。

令和4年12月予算特別委員会で、富山県ロケーションオフィスの取組と併せて誘致について質問を行い、当時は南里地方創生局長から前向きな答弁もあり、期待もするところであります。

多少、当時の繰り返しになりますが、富山県では、過去には「まんが道」——これは高岡市です、や「凜凜と」——魚津市などが舞台として取り上げられています。両方とも主人公は男性でして、私としては、朝ドラの王道はやはり女性が主人公だというイメージをしており、ぜひ富山県の女性を主人公にした朝ドラを取り上げていただきたいというふうに考えています。

今年は、「あんぱん」で高知県、「ばけばけ」では島根県が注目を集めており、地域の観光振興の起爆剤として期待されています。また、作品によっては効果が長く続くケースもあり、飛騨地方を舞台とした「さくら」などは、近年でもたくさんのイベントが行われています。

そこで、例えば、薬都をアピールするなら薬剤師の女性、すし県でアピールするなら女性すし職人、伝統産業なら井波の女性彫刻師など、題材は幾つもあるかと思います。今回は新田知事の御所見をお伺いいたします。

次の質問の前に一言、地震や液状化による被災した地域、施設、漁港含めて修繕、復旧・復興。今日は加速化補正予算も提案されましたが、またロードマップもできています。しっかり国の財政支援を活用し、早期の復旧を要望する次第でございます。

さて、港湾の復興にもつながる5万トン級のクルーズ船誘致について、海王岸壁の調査設計に取り組むとのグッドニュースを、昨年の6月議会でも、私、紹介させてもらいましたが、その後の富山新港海王岸壁整備の進捗状況について金谷土木部長の御所見をお伺いいたします。

あわせて、クルーズ船のポートセールスについて、今からセールスが必要と考えています。どのように取り組んでいくのか宮崎観光推進局長にお伺いいたします。

次に、県営渡船について、11月16日の日曜日、23日の日曜日に代行車両における社会実験が行われました。地域住民の移動に責任を持つ県としては、今回の実験の結果を検証し課題解決していくことが重要かと考えています。

全国的な船員不足への対応や持続可能な交通手段、地域住民の足の確保について、今後の対応を金谷土木部長の御所見をお伺いし、大きな問1を終わります。

○議長（武田慎一）新田知事。

〔新田八朗知事登壇〕

○知事（新田八朗）八嶋浩久議員の御質問にお答えします。

NHKの朝ドラの誘致についての御質問にお答えします。

議員御提案の、本県ならではの題材で朝ドラの誘致が実現すれば、制作スタッフの滞在による直接的効果のほかに、富山県の認知度向上、また県内のロケ地巡りといった観光誘客、地元の魅力の再発見による地域の活性化などなど様々な効果が期待をされますので、本県にとって多くのメリットがあると考えます。

本県に関連した朝ドラについて、議員が言及されたもののほかに、

昨年放送された「虎に翼」では、民法上の権利濫用の禁止を取り上げた回の放送後、全国から実際の事件の舞台となった宇奈月温泉を多くの方が訪れておられます。

また、ちょうど今、放送中の「ばけばけ」では、主人公の夫のモデルとなった小泉八雲の旧蔵書であるヘルン文庫が収められている富山大学中央図書館で開催されている特別公開、企画展示に、多くの方が訪れていると伺っております。

県では、富山県ロケーションオフィス（T L O）を設置し、ドラマや映画など映像作品の舞台、題材として本県が選ばれるよう、映画制作者が集まる商談会がありますが、そこに参加して人的ネットワークを築き上げてきました。また、S N Sを活用したロケ地情報の発信、そして、きめ細かなロケ地情報の提供や事前下見への職員の同行、あるいは、ロケ中に夜の懇親会の場を紹介したりとか、そんなきめ細かい努力を続けてドラマや映画の誘致に積極的に取り組んでいます。

このT L Oでは、これまでに500作品以上の撮影支援を行っておりまして、近年は、現在公開中の映画「港のひかり」やA m a z o nオリジナルドラマで国内視聴者数歴代1位を記録した「私の夫と結婚して」、NHKドラマ「コトコト」など多くの話題作の撮影が、議員の地元の射水市をはじめ県内各地で行われるなど、ロケ地としての富山県の評価は高まってきていると捉えております。

今後とも、市町村や関係団体と連携し、美しい景観、食文化、伝統工芸を含め、本県ならではのロケ地としての魅力を発信するとともに、丁寧な撮影支援を行うことで制作関係者との信頼関係を構築し、朝ドラをはじめドラマや映画の誘致につなげてまいりたいと考

えます。

1 問目、私から以上です。

○議長（武田 慎一） 金谷土木部長。

〔金谷英明土木部長登壇〕

○土木部長（金谷英明） 私からは 2 問、まずクルーズ誘致に向けた富山新港の岸壁機能の強化についてお答えをいたします。

平成15年に供用した帆船海王丸の南側にあります海王岸壁につきましては、おおむね 2 万トン級までのクルーズ船が寄港可能な岸壁でございます。今年 5 月にはアザマラ・パシュートが寄港するなど、これまで延べ30隻が寄港をしております。

県では、この岸壁に、御紹介いただきました港湾計画の変更をさせていただいておりまして、具体的には、今年 7 月に造船された飛鳥Ⅲなど 5 万トン級クルーズ船が寄港できるよう、令和 6 年12月に計画の変更をしたところでございます。

内容を見てみますと、不足する岸壁の長さを補うため、係留施設を現在の220メートルから約300メートルに変更するものでございます。令和 6 年度補正予算で新たに着手したところでございます。

詳細を見てみますと、既存の岸壁の東側に船をつなぎ止める係船柱を新たに 2 基設けるものでありまして、係船柱には長さ約30メートルのくいをそれぞれ 4 本ずつ、合計 8 本海中に打ち込むことになります。これまでに、ボーリング調査を終えておりまして、現在、詳細設計を進めております。今年度中の工事発注を目指しているところであります。

また、併せてになりますが、水深も少し浅くなっているところがありますので、確保するためのしゅんせつを行う必要もありまして、

引き続き、関係機関と協議、調整しながら、早期の完成に努めてまいります。

次に、県営渡船についてお答えをいたします。

堀岡と越の潟の間を結ぶ地元の足として重要な役割を担ってきました渡船は、全国的な船員の不足から運航する船員が高齢化をしておりまして、また船自体も老朽化が進んでおります。近い将来、現在の運航体制を維持していくのが困難な状況でございます。

また、平成22年度富山県行政改革委員会では、新湊大橋が完成し、また現在の渡船の代替交通手段が確保されれば、渡船を廃止する方向で市や地元関係者と協議すると報告をされております。

このようなことから、地元の合意を得て、紹介いただきました去る11月16日と23日の日曜日に、渡船を休止し代行車両のジャンボタクシー——これはドライバーを除きまして定員が9名、自転車が2台載せることができるんですが——1日48便、2日間で96便を運航する社会実験を行ったところであります。

当日は、公共交通機関、万葉線やバスなどとの接続が心配という御意見があったほか、定員と自転車の積載可能台数を超えたケースが、自転車、それから定員の人のほうですが、それぞれ1便ありましたけれども、大きな混乱はなく代行車両を御利用いただいたところでございます。

そして、翌週そして翌々週の日曜になりますが、11月30日と昨日12月7日には、渡船の利用者、今回は代行車両じゃなくて実際に渡船を利用した方々に、当時、代行車両を利用したときの状況、利用したかどうか、それから利用したときの感想などを、改めて調査をさせていただきます。

11月30日の速報が入っております。渡船を利用された方のうち198名から回答をいただいております、うち29人が代行車両を当時利用したということでございました。

御意見にはいろいろありましたが、時間がやっぱりかかるねというお話があったり、自転車を積める数が少ないという御意見がありましたものの、代行車両を利用した29名のうち大半の22名が特に問題はなかったとしておられまして、地元の方への影響は比較的少なかったのではないかとというふうに考えております。

御質問の運航体制を見直す際の代替の交通手段としましては、今回社会実験しました代行車両のほか、例えば、新湊大橋の下には歩道としてプロムナードがございますし、また、デマンド交通の活用なども考えられると思っております。今後、社会実験で得られた課題を踏まえまして、引き続き、地元の方々や射水市などと丁寧に協議し、検討を進めてまいります。

以上であります。

○議長（武田慎一）宮崎観光推進局長。

〔宮崎一郎観光推進局長登壇〕

○観光推進局長（宮崎一郎）私からは、クルーズ船の誘致の御質問にお答えいたします。

伏木富山港へのクルーズ船誘致につきましては、これまでも港湾所在市等と連携し、船社や旅行会社へのセールスや招聘のほか、クルーズ商品の販売会社等に対する支援、海外見本市への出展などのPRを行ってきたところであり、今年の寄港回数は9回と平成26年に並び過去最高となったところです。

このうち、富山新港海王岸壁には、令和5年にラグジュアリーク

ラスのル・ソレアルが、また、今年5月にはアザマラ・パシュートが初寄港しており、これらは、これまでの船社等へのセールスが功を奏して実現したものと認識しております。

加えまして、乗客の皆様からは、新湊内川や井波のまち歩きツアー、埠頭での新湊の獅子舞でのお見送り、国宝瑞龍寺や世界遺産五箇山合掌造り集落の魅力等について、高い評価をいただいているところ です。

この海王岸壁につきましては、現在、小型クルーズ船のみの受入れ可能とされているところ、今回の岸壁強化によりまして、実際の入港に当たっては安全性の検証が必要であるものの、新たに、先ほど土木部長から紹介ありました飛鳥Ⅲや、MITSUI OCEAN FUJI、シルバー・ウィスパーなど、主に高付加価値旅行者を対象とする中型クルーズ船の受入れが可能となり、さらなる寄港回数の増加が期待できる ところ です。

県といたしましては、これまでの寄港実績も引き続きPRしながら、港湾所在市や関係機関と連携し、今後新たに寄港が期待される中型クルーズ船の船社へのセールスを一層強化するなど、さらなるクルーズ船の誘致に向けて取り組んでまいります。

以上です。

○議長（武田慎一）八嶋浩久議員。

〔20番八嶋浩久議員登壇〕

○20番（八嶋浩久）続きまして大きな問2、安全・安心豊かな暮らしの実現について6問お伺いいたします。

南砺市五箇山世界遺産登録が30周年。高岡御車山、城端曳山、魚津のタテモン行事のユネスコ無形文化遺産登録が来年で10周年を迎



えます。そして、射水市の放生津八幡宮祭曳山・築山行事がユネスコ無形文化遺産への登録が確実視されている状況、また、立山砂防事業の世界遺産登録の準備活動もあり、企画財務部会6人で、パリにあるユネスコ本部とユネスコ日本支部を訪問してまいりました。

ユネスコ無形文化遺産登録を決める会議が、まさに今日からインドのニューデリーで開催されます。知事の提案理由でも御紹介があったところでもあります。ここ数日のうちに登録が決まれば、富山県に1つユネスコ無形文化遺産が増えるとても明るいニュースではないでしょうか。

また、県の宝として、観光、産業、交流人口増、様々な目線から紹介していけるのではないかと、地元の政治家として感動的な歴史の瞬間に立ち会える喜びを感じずにはおれません。先人の御功績に対し敬意を表するものでございます。

そこで、登録決定後になると思いますが、放生津八幡宮祭曳山・築山行事について、登録の目的である保護と認知向上、文化間の対話促進のため、今後の保存・継承、活用に対し、パリのユネスコ本部——日本支部も含めますが、国、文化庁や富山県、地元射水市、地元関係者が連携して、予算を含めて未来につながる支援にどのように取り組んでいくのか、また、登録を機に、放生津八幡宮の表参道で開発されているアルベルゴ・ディフーズ事業や、近辺の海王丸パークや出店著しい内川エリアなどと連携した観光ルートとしても大々的にPRしてはどうかと考えますが、併せて新田知事の御所見をお伺いいたします。

射水市には、新湊の曳山以外にも海老江の曳山3基、鯨神輿の保存、大門の曳山4基、その曳山囃子の保存・継承、温習会の取組、

射水市からも毎年県要望も出ていますが、歴史、伝統文化の保存・継承、活用について、県としても支援の必要性を考えますが、広島教育長の御所見をお伺いいたします。

本年7月に、伏木富山港（新湊地区）ですが、国際物流ターミナルにおいて1,000匹以上のヒアリを確認。富山県内でのヒアリ確認は初ということでした。ちょうど6年前、そのときも国際物流ターミナルでしたが、アカカミアリが確認され、根絶の見通しなど質問したことを思い出しました。

グローバル化の中、要緊急対処特定外来生物は、港湾を中心に、いつでも全国どこでも確認される状況であろうかと考えます。本年、個体数1,000匹以上の確認というのは全国でも大変多い個体数の確認だったと思いますが、全国はどのような状況だったのでしょうか。

その後、ヒアリの駆除もほぼ完了との報道もありましたが、根絶状況について、また今後、来年度に向けて、国との連携や富山県内の港湾での水際や確認後の取組について、杉田生活環境文化部長に併せてお伺いいたします。

芸術文化は人の営みに欠かせません。また、社会に新たな価値を創出する原動力でもあります。

そこで、県が取り組んでいる、広げよう音楽の輪のコンサートのミュージアムコンサートと親子で楽しむオーケストラコンサート事業のそれぞれの内容と狙いはどのようなものなのでしょうか。

また、ミュージアムコンサートでは、美術館、博物館のミュージアムの施設、本年度は初めて図書館での開催にもチャレンジ、それぞれの音楽コンサートとコラボして行われると聞いています。

高い企画力、クオリティの高い音響、照明の演出、施設との連

携も必要で、今後については、ミュージアムに限らず多様な開催場所や公演内容が展開できないのか、どのように取り組んでいくのか杉田生活環境文化部長にお伺いいたします。

富山県内にもUPZ圏内があり、先ほどもフランス視察に触れましたが、議員会の企画財務部会で、東日本大震災以降世界初の基準で新設されたフラマンビル原子力発電所3号機を訪問してきました。

原発近隣のラムアドア市の住民参加訓練については、5地区あり毎年1地区で順番に訓練を積み重ねている。30キロメートル圏外への避難は主にバスで避難する。ロックアウト時は自己責任が求められ、ヨードピル——これ安定ヨウ素剤のことですが、薬剤師のいる地域の薬局にて保管し、配布は住民が受け取りに行く。訓練のほか、教育を含めてソフト対策に重きを置いているということでした。

フランスではエネルギーの自給率向上と環境問題の意識が高いこともあり、意識づけアンケート調査を毎年実施、回答率は極めて高い。また、住民オープン集会の開催で効果を高めているという話がありました。

そこで、今年、氷見運動公園で実施された原子力防災訓練を見学させていただきました。菅沢議員、山崎議員、光澤議員と会いました。フランスでの訓練を見学したわけではありませんが、フラマンビル原発のUPZ圏内では、フランスは軍隊中心による訓練。氷見公園では、北陸電力、放射線技師、放射線測定器のメーカーの皆さん方、住民のボランティアの皆さん方が多数参加されており、とても丁寧な感じがしました。

そこで、今回の原子力防災訓練、これまでと違った特徴的な新し

い取組のチャレンジはあったのでしょうか、成果や課題について、また次年度につなげる検証や検証を踏まえた予算を含めどのように取り組んでいくのか、中林危機管理局長の御所見を併せてお伺いいたします。

先般、富山県警の逮捕術大会、そして警察柔道剣道大会を見学してきました。本当、真剣勝負の大会で、県民の命、財産を守ることを使命に、日頃の鍛錬の成果を披露する大会、すごみも感じてまいりました。改めて敬意と感謝を申し上げる次第であります。

そこで、昨年4月1日の警察庁長官官房人事課長通達「社会情勢の変化に応じた地方警察官の採用募集活動の推進について」によると、全国的に採用状況が非常に厳しい状況であるとのことで、特に気になる記載として、全国的に採用内定者の辞退者が多く、令和2年度から令和4年度までの採用辞退者の平均辞退率は約30%にもなると記載されております。これは仮に100人採用内定者がいても、30人もの方が辞退されるということであります。

本県での過去5年間の採用辞退者、辞退率の推移について、また、通達にも記載されていますが、今後の採用辞退防止のための実効性ある施策をどのように取り組まれるのか併せて高木警察本部長に御所見をお伺いし、大きな問2を終わります。

○議長（武田慎一）新田知事。

〔新田八朗知事登壇〕

○知事（新田八朗）放生津八幡宮祭の曳山・築山行事についての御質問にお答えをします。

議員御指摘のとおり、放生津八幡宮祭の曳山・築山行事のユネスコ無形文化遺産への登録について、本日から開催されるユネスコ政

府間委員会で審議予定であり、先月の評価機関による勧告どおりに登録されることを、地元の皆様、また今日傍聴にお見えの皆様と共に心から期待をしております。

登録されれば、長年にわたり献身的に行事を支えてこられた放生津八幡宮曳山・築山保存会など関係の皆様にとって今後の大きな励みとなり、地域のさらなる活性化にも大いにつながると思います。

今後、県としても、国や射水市と連携し、地元関係者の皆様の御意見も伺いながら、世界に誇る伝統行事の保存・継承に向けた取組を支援してまいります。

射水市をはじめとした、こうした魅力的な各地域のお祭りは、富山ならではの大切な観光資源だと思います。そのため、県では観光庁の補助事業を活用し、地域と連携して曳山の特別観覧席設置に取り組んだほか、県観光公式サイトとやま観光ナビにおいて各地域のお祭りスポット、その場所から近い観光スポットを合わせた紹介やお祭り特集記事を掲載し、情報発信してまいりました。

また、県民記者が独自の視点で情報発信を行う、ふおとやまライターや各種SNSなども活用し、周辺観光地も含めた魅力発信に努めてまいりました。

今後、ユネスコ無形文化遺産に登録された際には、周辺観光スポットをまとめた特集ページへの追加や観光モデルコースでの紹介などPRを強化し、機運をどんどん盛り上げ誘客促進を一層図っていきたいと考えております。

2 問目、私からは以上です。

○議長（武田 慎一） 廣島教育長。

〔廣島 伸一 教育長 登壇〕

○教育長（廣島伸一） 伝統行事の保存への支援についての御質問にお答えいたします。

県の文化財保存活用大綱におきましては、「文化財の確実な保存と適切な活用」を基本方針の一つとして掲げておりまして、これまで国及び県指定の文化財を対象に、その保存修理や後継者育成事業などを支援してきております。

議員から御紹介ございました海老江の曳山、大門の曳山、これはいずれも射水市の有形民俗文化財に指定されている伝統ある行事でございまして、今ほど述べました現行制度による支援を行うためには、まずは県指定への文化財の登録という必要がございます。

行事の県指定に向けましては、まずは地元の射水市さんにおかれまして、さらなる調査を行い、県内各地に伝承されています多彩な曳山行事との比較分析、また他の曳山行事には見られない典型的な特色や文化的価値などを導き出していただき、その後に、その調査結果を踏まえて、県教育委員会として学術的、専門的な見地から評価を行い、指定について判断するというようなスケジュールになります。

このため、今後、射水市から調査などの御相談があった場合は、必要に応じて文化庁の指導も得ながら助言するなど対応してまいります。

一方、文化庁におきましては、令和３年度から文化財指定の有無を問わず、地域固有の伝統行事や用具の修理、新調、また唄やお囃子の後継者育成などを支援いたします地域文化財総合活用推進事業を実施しておられまして、これまで、海老江や大門の曳山についても、この事業を活用されまして用具の新調など行われたとお聞きし

ております。

今後とも、県内伝統行事の保存・継承に向けまして、この事業の継続を国に引き続き要望しますとともに、地元市や保存団体からの相談に適切に対応してまいります。

以上でございます。

○議長（武田 慎一） 杉田生活環境文化部長。

〔杉田 聡生活環境文化部長登壇〕

○生活環境文化部長（杉田 聡） 私からは、2問に対しましてお答えいたします。

まず、ヒアリに関する質問でございます。

要緊急対処特定外来生物でありますヒアリが、平成29年度に国内で初めて確認されて以降、環境省が関係機関などと連携し、ヒアリが分布する国や地域と定期コンテナ航路を有する全国で65の港で、その生息状況を年2回定期的に調査しております。県内では、伏木富山港（新港地区）の国際物流ターミナルで実施されております。

これまで全国では20の都道府県で171件の確認事例があり、伏木富山港では、本年度1回目の定期調査の7月11日に初めてヒアリの働きアリ1,000個体以上が確認されたところでございます。

これを受けまして、環境省が中心となって、分布調査及び殺虫効果のある餌の設置など防除対策が繰り返し実施され、ヒアリの確認数が減少し、5回目の8月28日の調査ではヒアリは確認されなかったところでございます。

以降、9月から10月まで行われた3回の調査でもヒアリが確認されず、8月の28日から1か月以上経過したことから、10月3日をもって防除が終了したものでございます。なお、10月7日の本年度2

回目の定期調査においても、ヒアリは確認されなかったところでございます。

この間、県では、環境省や国土交通省に協力する立場から、港湾事業者に対しまして、コンテナのヒアリ付着の有無の点検や発見した場合の駆除の方法を周知するとともに、県民の皆さんに対しては、発見箇所が一般の方の立入制限エリアであることや、ヒアリ発見時の留意事項について、ホームページなどでお知らせしているところでございます。

今後、県内でのヒアリの定着防止に万全を期するため、国と連携しまして、港湾事業者に対し調査への協力や発見時のターミナル内での対応について周知を図るとともに、地元射水市さんとも県民への周知に共同で取り組んでまいりたいと思います。

次に、広げよう音楽の輪コンサート事業についてお答えいたします。

広げよう音楽の輪コンサート事業は、幅広い世代の県民に、身近な場所で質の高い音楽に親しめる機会を提供しようと、平成30年度から実施しているものでございます。

このうち、ミュージアムコンサートは、県ゆかりの音楽家などを美術館などの文化施設に招いて、ミニコンサートを開催しているもので、これまで美術館や博物館、植物園などで開催し、新たな形の音楽鑑賞の機会を提供しているところでございます。

また、こうした施設はコンサート専用ではないため、企画段階から施設管理者と連携して、音楽が目的ではない来館者への十分な配慮や、出演者や選曲を各館の展示などの内容にちなんだものとするなど、相乗効果が出るよう工夫しているところでございます。



なお、議員からも御紹介いただきましたが、来月には図書館を会場としたミュージカルを開催することとしております。

次に、親子で楽しむオーケストラコンサートは、子育てや妊娠中などで音楽会への参加が難しい親御さんや、一般向けの音楽会では入場できない未就学児を含めた子供たちを対象として、県立文化ホールで開催しているものでございます。授乳スペースの設置やジュニアシートの貸出しなどの配慮を行っております。

親御さんからは、子供を気兼ねなく連れていける音楽会は貴重との声を頂いており、また、子供たちにとっても新しい世界を知り、音楽への興味や感性を育むきっかけとなっているのではないかと感じております。

このほか、県では、県民からの依頼にも応じて、学校や公民館などで音楽会を開催するアーティストマッチング事業も実施しており、今後とも、幅広い世代の県民の皆さんが、身近な場所で質の高い音楽に触れ親しむ機会の充実に努めてまいります。

以上でございます。

○議長（武田 慎一） 中林危機管理局長。

〔中林 昇危機管理局長登壇〕

○危機管理局長（中林 昇） 私からは、原子力防災訓練についてお答えいたします。

11月24日の原子力防災訓練では、60機関、約670人の参加を得て、氷見市での実働訓練と県、氷見市、志賀オフサイトセンターなどが連携した図上訓練を行っています。

今年度の新たな取組としては、関係者間での円滑な情報共有の観点から避難退域時検査支援システムを試行的に導入し、氷見運動公

園での避難住民や車両の検査結果のペーパーレス化を図っています。

また、県内での訓練ではありませんが、本県と同様に原子力発電所の隣接県である鳥取県での11月9日の原子力防災訓練に際し、検査資機材を積み込んだ車両を本県職員3名が富山から交代で運転して鳥取県に向かい、プレーヤーとして訓練に参加して検査技術等のスキル向上にも努めています。

このほか、本県での訓練をより実践的な内容とするため、今後の災害に備え、集落の孤立の発生を想定した空路での住民避難、自宅で屋内退避ができない状況を想定した一時集合場所における屋内退避訓練の実施、石川県中能登町の一部住民が代替経路で津幡町に避難する際に、途中の氷見運動公園において避難退域時検査を実施しました。

また、地域住民には年2回、避難行動、訓練結果等をまとめた原子力防災通信を発行し、理解促進を図っています。

県では、今後、今回の訓練の成果や課題について振り返る関係機関の意見交換会を開催することにしており、次年度以降の訓練内容に反映することで、本訓練をより実践的かつ効果的なものとし、県民の安全・安心の確保に努めていきたいと考えております。

○議長（武田慎一）高木警察本部長。

〔高木正人警察本部長登壇〕

○警察本部長（高木正人）私からは、県警察の採用辞退者数などに関する質問にお答えいたします。

県警察の過去5年間における採用辞退者数及び合格者数に対する辞退率の推移であります。令和2年度すなわち令和3年4月採用予定者につきましては17名で20%、令和3年度が16名で18%、令和

4年度が18名で17%、令和5年度が24名で24%、そして令和6年度——これは令和7年4月採用予定者であります、それが31名で37%ということで、過去5年間の辞退率平均が23%と高水準にある大変厳しい情勢にあると認識しております。

最終合格後に辞退した者に任意で辞退理由の聞き取りを行いましたところ、辞退理由の主な理由としては、他の都道府県警察や消防、市役所等への就職といったものであります。

議員御指摘のとおり、このような厳しい情勢にある中、県警察として採用辞退防止施策の強化に取り組む必要があるというふうに認識しております。

具体的には、警察本部の採用担当や警察署などのリクルーターから採用内定者への定期的な連絡のほか、今年度からは受験者への後押し及び内定後の辞退防止を目的として、オープンキャンパスへの保護者の方々の参加を呼びかけ、保護者の理解を得るためのアプローチを実施しております。

また、これからですけれども、今月21日には警察学校において採用内定者の研修会を開催いたしまして、採用内定者の顔合わせ、施設や利用者の寮の見学、学校生活への心配事に応える個別面談などの実施により、採用後の不安の払拭に努めるなど、辞退防止に向けた施策を講じる予定であります。

県警察といたしましては、引き続き、採用内定者の目線に立って、辞退防止に効果的な施策に取り組み、優秀な人材の確保に努めてまいる所存であります。

私からは以上です。

○議長（武田慎一）八嶋浩久議員。

〔20番八嶋浩久議員登壇〕

○20番（八嶋浩久）大きな問3、国際化を見据えた産業振興について、最後3問お伺いいたします。

今回の中国側の日本への渡航自粛措置について、富山空港発着の上海便への影響はいかがでしょう。また、県内在住の中国の方や中国からのインバウンドについて現時点での影響はどうでしょう。渡航制限や各種イベントの妨害や中止、全国各地で旅行のキャンセルがあったなどの報道もございます。

過去2012年は、尖閣諸島魚釣島に中国人活動家が上陸したことに端を発する反日暴動、日系企業の工場や百貨店、日本料理店、飲食店が襲撃され、操業停止や廃業、撤退に追い込まれました。

富山県は対中関係について友好的な交流関係を積み上げてきていますが、とてもさみしく、一瞬にして崩壊する危険を感じます。チャイナリスクの軽減は喫緊の課題というより、日頃から中国に過度に依存しないことが肝要ではないかと考えます。

そこで、11月に実施されました中国からのインフルエンサーや旅行会社の招聘について、渡航自粛要請の影響、タイミングが悪かったで片づけずに、今後、中国からのインバウンドの拡充は、リスク軽減の議論も必要かと感じております。国際間のバランスは大切ですが、状況的に少し様子を見るなど、それなりの対応が必要かというふうに考えています。

上海便を含めたインバウンドや誘客事業の影響と、リスクや影響を踏まえた今後の中国からのインバウンドの方針や、他国への取組をどのように考えているのか新田知事にお伺いいたします。

中国との関係はよいときもあります。今のよう悪いときもあり

ます。今回のような北陸三県が連携してのインフルエンサー招聘についての施策は、ちょっと前のめりになったような印象も受けるわけであります。

13年前の反日暴動、近年、オーストラリアや韓国なども一方的に厳しい制裁を受けました。富山県日台友好議員連盟では、このチャイナリスクの軽減を意図したわけではありませんが、たまたま中川議連会長の御縁を頂きながら、高雄市議会や台南市議会からのインビテーションや、7月の富山県日台友好議員連盟の総会で7年ぶりの台湾訪問が承認されたというわけで、台湾を訪問してまいりました。

鍋嶋議員に倣いまして、私も今日は黄色いネクタイ、日台友好バッジを着用しております。

高雄市議会そして台南市議会では本当に熱烈歓迎でした。高雄港視察ではクルーズ船、これは海王岸壁にも立ち寄ってくれる日本丸の就航を丁寧に御紹介いただいたり、高雄市内にある日台交流協会では、富山空港を含め日本の地方空港にも大変興味・関心を持っておられました。

とても友好的だったので、今回訪問した台湾南部の高雄市や台南市などからのインバウンド誘致の強化など検討してはどうでしょう。本省人が多くリスクも少ない。また、台北市など台湾北部は激戦区なので、これからは台湾の南部、地方都市に注目してもよいと考えています。

今回は、来年1月から3月にかけて台北臨時便の就航が決まったことを受けて、田中局長にも御同席いただき、チャイナエアラインに対し台北定期便再開の要望活動がありました。鍋嶋議員から質問

があったとおりであります。そこで、今回の補正予算では、この台湾臨時便への支援も御提案されておりました。本事業の期待される効果も含め、観光振興の強化についても併せて蔵堀副知事に御所見をお伺いいたします。

富山県のブランド魚、シロエビ漁は10月末で終了、禁漁期間に入りました。5月にスタートしたシロエビ漁は不漁続きで、漁業者、消費者ともに不安を募らせました。

後半、回復の報道もあり最終結果はどうだったのか、海底のことではっきりしませんが、今シーズンの経験を踏まえ、来シーズンに向けての助言や支援策もお願いするところでございます。

まだまだ地震の影響が残る新湊漁港であります。修復、修繕、復旧から今後、復興に向けての取組が気になるところであります。

漁船の大型化への対応や漁具の保管庫の整備など、今後は復興につながる支援も必要であると考えますが、射水市などどのように連携して取り組んでいくのか津田農林水産部長に御所見をお伺いし、また、県民の皆様によいお年を、とお伝えして質問を終わります。

御清聴ありがとうございました。

○議長（武田慎一）新田知事。

〔新田八朗知事登壇〕

○知事（新田八朗）中国からのインバウンド誘客についての御質問に答えをします。

本県の中国からのインバウンド誘客への影響について、富山県ホテル旅館生活衛生同業組合や県内の主要宿泊施設からは、これまでのところ、中国の渡航自粛要請を受けてのキャンセルがあったとの情報は聞いておりません。

また、富山―上海便についても、航空会社に確認したところ、予約状況に大きな変化が見られないとの回答を得ています。このため現時点では、本県において大きな影響が出ていないものと考えています。

県では、これまでも中国からの誘客に向け、現地旅行会社やメディアへの情報発信や県内招聘、現地旅行博への出展など様々な取組を展開してきており、11月中旬には石川県と連携し、中国の旅行会社の招聘をいたしました。また、北陸3県連携事業としてインフルエンサーの招聘をそれぞれ実施しています。

今後も、引き続き、状況を注視して情報収集に努めてまいります。県では、特定の国、地域に限定することなく、できるだけ多くの方に富山県にお越しいただきたいと考えておりまして、引き続き、中国も含め、様々な国、地域からのインバウンド誘客に向け取り組んでまいります。

3問目、私からは以上です。

○議長（武田慎一）蔵堀副知事。

〔蔵堀祐一副知事登壇〕

○副知事（蔵堀祐一）私からは、台湾からのインバウンド誘致についての御質問にお答えをいたします。

観光庁の宿泊旅行統計調査によりますと、令和6年の富山県への訪日外国人旅行者の延べ宿泊者数は約25万人となっておりますけれども、このうち国、地域別では台湾が最多の約8万3,000人となっております。多くの台湾の方々に本県に訪れていただいている状況でございます。

県では、台湾における認知度向上とさらなる誘客促進を図ります

ため、これまでも、現地旅行会社やメディアへのセールス、現地旅行博・商談会への出展、インバウンド向け観光公式サイトやSNSでの情報発信などに取り組んでまいりました。

あわせて、他県に先んじまして、主に高付加価値旅行者をターゲットといたしました誘客に取り組んでおりますほか、台湾南部からの誘客のため、現地旅行会社の日本支社などへのセールスも強化いたしてきております。

また、現在提案させていただいております11月補正予算案におきまして、来年1月から3月に運航されます富山―台北間の臨時便に係るインバウンドの旅客確保への支援を充実することとしております。台北の旅行会社と富山への送客の打合せを進めまして、より多くの方々に臨時便を御利用いただけますように取り組んでまいります。

県としては、今後も県内自治体や近隣県、観光事業者などと連携いたしまして、現地旅行会社などに対して、富山県への旅行商品造成のための具体的な提案やPRを行ってまいります。

こうした積極的な情報発信を通じまして、台湾南部も含め台湾全域からのさらなる誘客に努めてまいります。

以上です。

○議長（武田慎一）津田農林水産部長。

〔津田康志農林水産部長登壇〕

○農林水産部長（津田康志）私からは、新湊漁港の復旧・復興についての御質問にお答えします。

新湊漁港では能登半島地震により、漁港施設をはじめ、漁協の漁具倉庫や網干場といった共同利用施設において、液状化に伴う地盤



沈下や隆起等による被害を受けたほか、海中に設置していました定置網やかご縄漁のかご縄等の漁具につきましても、損傷や流失等の被害が発生しております。また、シロエビやベニズワイガニ等の漁獲量も減少しております。

このうち、共同利用施設につきましては、国の補助金を活用しながら本年9月末までに全ての施設で工事が完了し、被災した漁具につきましても、射水市と協調した支援を行い、昨年度末までに取得を完了するなど、復旧に向けた取組が順調に進んでおります。

また、シロエビ等の水産資源につきましても、国等の協力機関と連携して状況を把握するための調査を実施し、新湊漁協をはじめ漁業者の皆さんに情報を提供しております。

一方、復旧が進み定置網漁業等の操業が本格化する中、新湊漁協では、新たな漁場の利用や災害に備えた予備網の確保等により、漁業者が所有する網の数が増加し、既存の保管庫に収まりきらない状況が発生していることから、漁業者からは、屋外で保管中の漁具の劣化や破損を懸念する声が上がっております。

新たな漁具保管庫等の整備につきましては、県としても震災後の漁業者の経営安定にとって重要であると考えております。今後も射水市と連携しながら、継続的な支援について検討してまいります。

以上でございます。

○議長（武田慎一）以上で八嶋浩久議員の質問は終了しました。

暫時休憩いたします。

午前11時54分休憩